



令和7年度上期レビュー 重点項目の評価

定量的評価と今後の課題

2025年10月8日 10月度定例記者会見
奥州市長 倉成 淳

令和7年度施政方針の主要テーマ 「人口減少でも元気なまちづくり」



同様な表現：「賢く縮む自治体」、「人口減少時代の再開発」



より具体的に表現

1) 賢く縮み、新しい芽を育てる

温泉施設・スキー場の整理 → 小さな拠点作り、奥州湖周辺エリア開発
(未来羅針盤プロジェクト)

2) 将来的な財源を確保する（人口減少の影響を受けない財源）

- ①胆沢ダム自然越流水を用いた水力発電（流域地域振興基金）
- ②市有林経営管理事業（計画策定地に「」クレジット制度導入）
森林整備補助金の補助率 40%→68%
- ③地方創生交付金の申請・獲得（令和7年度事業での実績 3.2億円）

3) 市民の積極的なマインドを引き出す

- ①大谷翔平選手応援団活動 二刀流の人間性「謙虚で大胆」・・・国際的に称賛
- ②マスコットキャラクターおうしゅうたろう・・・親しみを持った政策

レビュー一覧表（令和6年度、令和7年度上期）

3

項 目	主な施策	指 標	結 果	評価
財政面	・ 財政健全化 ・ 計画的投資	財調残高 将来負担比率	R6年:前年度より4.4億円減少 R6年28.1%（微増）	△
教育・子育て	・ 産前産後サポート充実 ・ 病後児保育	産前産後サポートの満足度 こぐま園利用者数	90.9%(R3) → 98.0%(R6) 41人（R6上期※） → 155人（R7上期） ※R6.6以降の4ヵ月分の実績	○
医療・福祉	・ 地域医療奥州市モデルの策定及び具体化 ・ 重層的支援体制	包括ケアの拠点整備 モバイルクリニック利用者増加 体制構築	新医療センター基本計画決定、基本設計予算 議決 登録患者数19人(初年度から+10) リピート率100% 地域共生社会課新設	○
まちづくり	ビジョン策定	羅針盤PJ出張懇談会回数（R4～）	一般向け24回（517人参加）、生徒・児童向け12回（559人参加）	○
生業作り	企業誘致 農業振興	企業立地件数（累計） コメの農法・流通の改革	180（R3） → 191（R6） 節水型乾田直播栽培への支援、オーストラリアへの輸出(5t)	○
ひとづくり	人材育成 マインドアップ 中高生海外交流	協働のまちづくりアカデミー 大谷応援団サポーター数 年間派遣者数	累計修了生 143人 初年度（R3）の1.6倍（311人） R7年 生徒41人、職員6人	◎
稼ぐ力	・ 観光振興 ・ 国交付金等の積極的活用 ・ ふるさと応援寄附制度	申請型交付金 寄附金額	地方創生基金3.2億円獲得 15.6億円（R3） → 29.9億円（R6）	◎
情報発信力	シティプロモーション	おうしゅうたろう Instagramフォロワー数	シティプロモーションアワード2024金賞受賞 6,060人（R7.9月）	◎

令和6年度活動に関する9月議会での評価

更なる検討が必要な項目
(政策提言に関する附帯決議から抜粋)

総務部門

- ☐ 未来羅針盤プロジェクト推進事業
- ☐ ふるさと応援寄附事業
- ☐ DXの推進
- ☐ 地域づくりの推進

産業経済部門

- ☐ 観光基本計画
- ☐ 観光客対策
- ☐ 新規就農者対策
- ☐ 森林環境譲与税の活用

教育厚生部門

- ☐ 学校施設のトイレやエアコンなどの環境整備
- ☐ ICTを活用した教育の充実
- ☐ 重層的支援体制整備事業の推進
- ☐ モバイルクリニックの更なる有効活用
- ☐ 産後ケアの待機解消
- ☐ 放課後児童クラブの施設の環境改善
- ☐ 病院事業の経営改善

建設環境部門

- ☐ 空き家対策
- ☐ GX推進の方策
- ☐ 市営住宅の在り方
- ☐ 住宅改善の方策
- ☐ 技師等の人材確保策
- ☐ 脱炭素社会実現

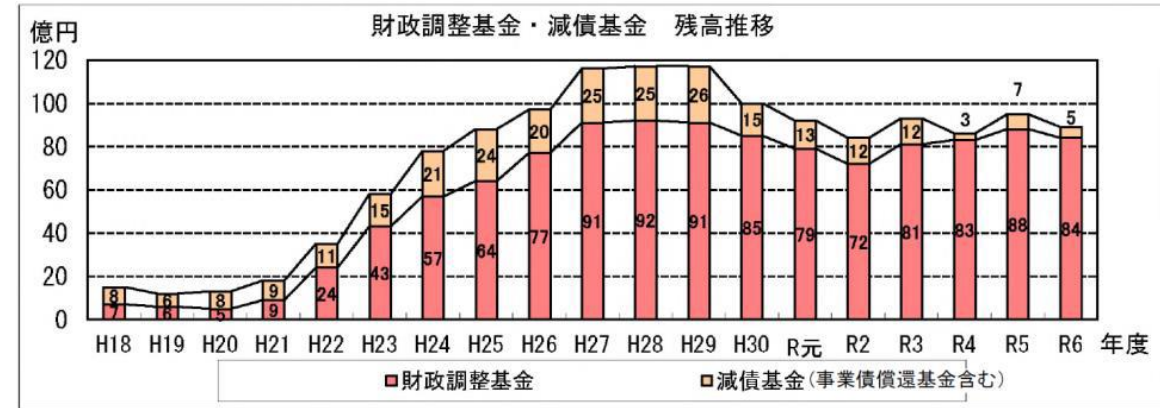
取組

財政健全化に向けた取組状況

1 基金残高

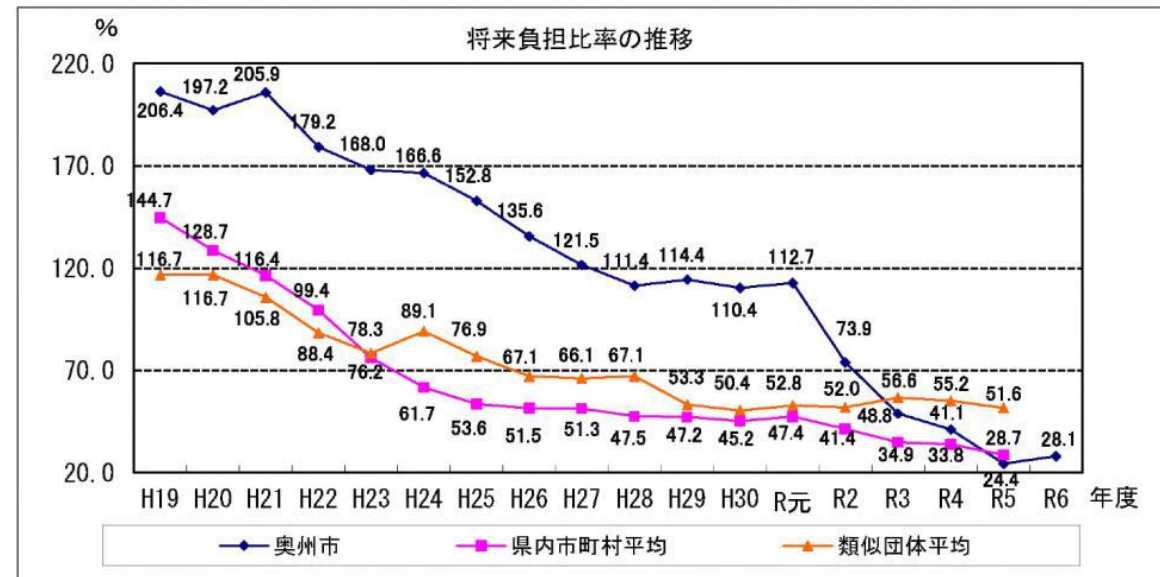
市の貯金にあたる基金のうち、調整財源として活用できる基金には、財政調整基金と減債基金があります。残高の推移は次のとおりです。

財政調整基金は、前年度末から約 4.4 億円減少し約 84 億円、減債基金は、約 1.9 億円減少し約 5 億円となっています。



2 将来負担比率の推移

将来的に財政を圧迫する可能性の度合いを示す将来負担比率は、地方債の借入額と公債費の償還額の関係であるプライマリーバランスの黒字を堅持することにより市債残高を着実に減らしており、低下傾向にありますが、令和6年度は、基金を取り崩した影響で微増しました。



取組

子育て支援の充実

概要 令和4年4月から市内での分娩ができなくなったことから、市は子育て支援策を充実させてきました。現在では、県内唯一の宿泊ケアの実施など、県内ナンバーワンのサービスを提供しており、利用者の満足度も非常に高くなっています。

令和5年6月 水沢病院での宿泊型産後ケアの再開

令和5年8月 子ども医療費助成の無償化の対象を高校生等まで拡充

令和6年4月 市外等で利用した産後ケア事業の利用料助成開始
〃 6月 民間宿泊施設を利用した日帰りケアの実施

令和7年4月 宿泊施設を利用した日帰りケア受け入れ枠の拡大
一時預かり利用料助成事業の開始

令和7年6月 温泉施設を活用した日帰りケアの開始



「妊娠・出産について満足しているか」(4か月児健診時)

R3 90.9%

R6 98.0%

取組

病後児保育の実施

概要 市の子育て支援策の一つとして、令和6年6月から病後児保育所「こぐま園」を再開していますが、令和7年4月から開所時間を拡大し、さらに利用しやすくなりました。

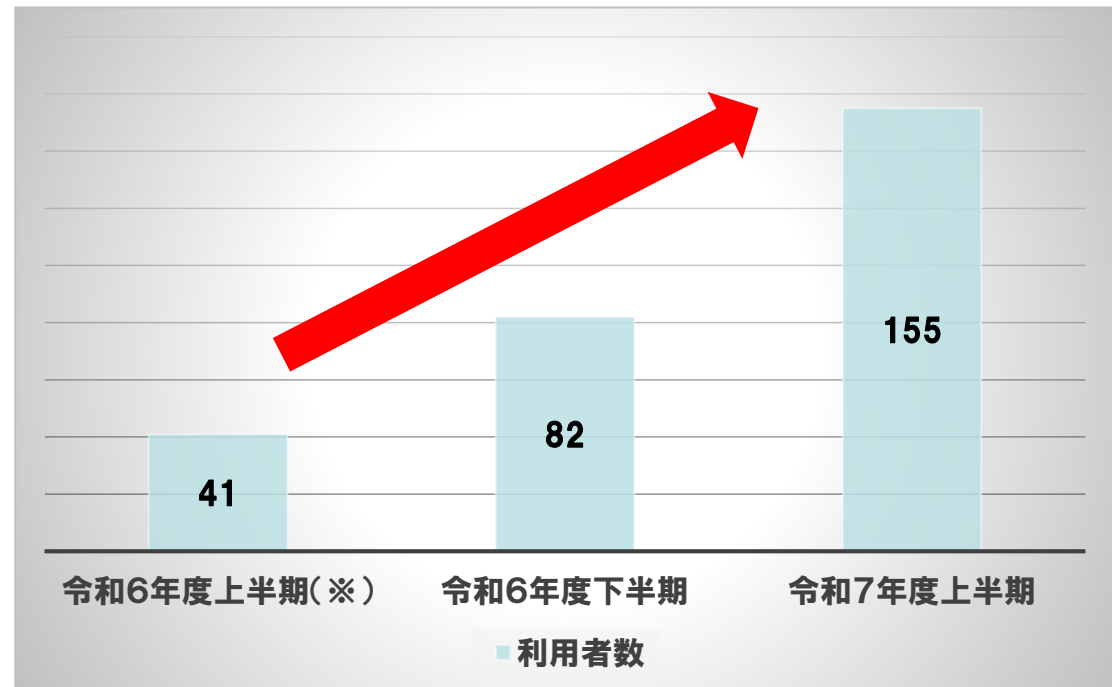
開所時間

変更前 8時30分 ～17時

変更後 8時 ～18時



前年同期からの伸び率 **約4倍！**



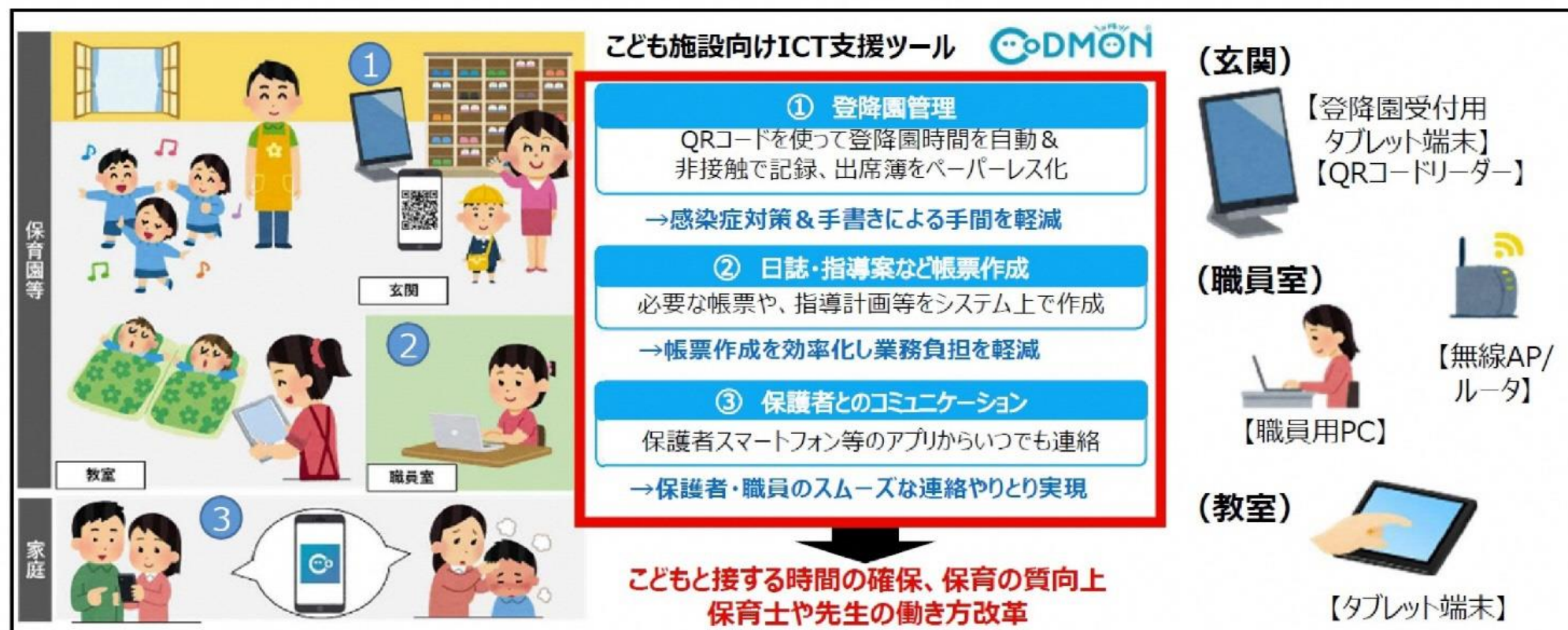
※令和6年度上半期は6月以降の4ヵ月分の実績

取組

公立保育所等へのICTシステムの導入

概要

登降園管理、お知らせ配信、欠席連絡など、職員・保護者双方に便利な機能を活用して業務の効率化を図りながら、より良い保育環境を整え保育の質の向上を目指します。



※保育所のICTによる支援システムのイメージです。

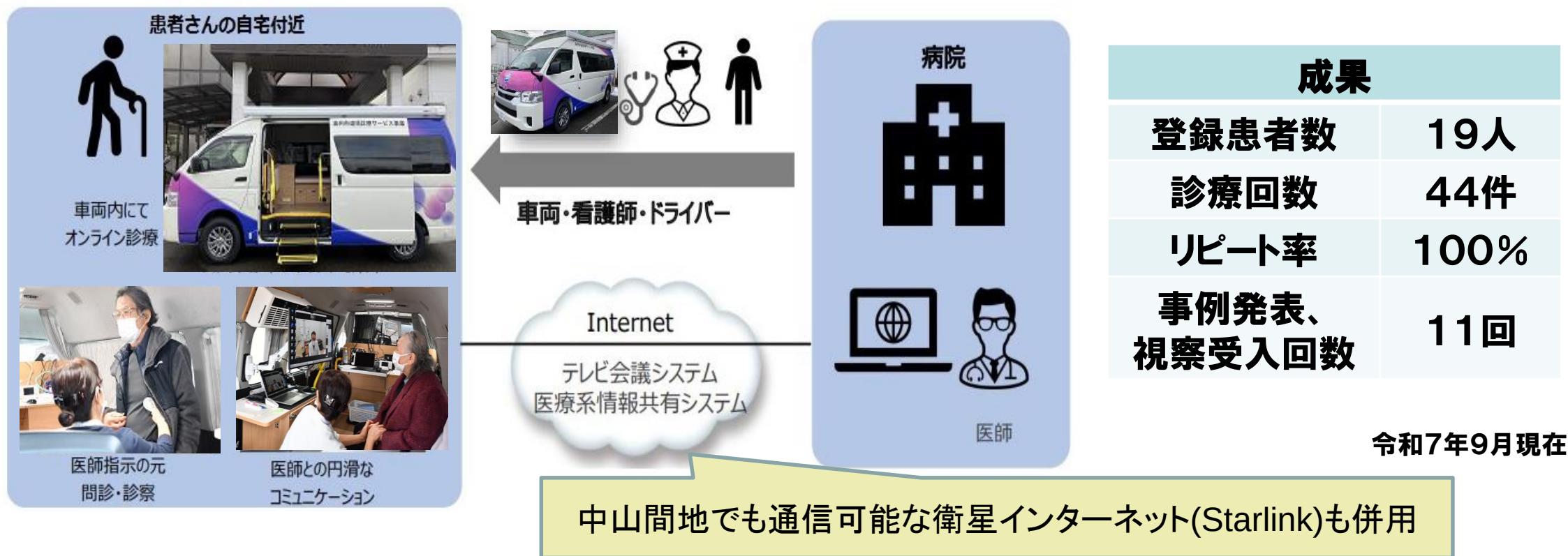
取組

モバイルクリニック事業の実施

概要

令和6年2月から、衣川地域で、オンラインによる医師の診察を受けられるモバイルクリニック事業をスタートしました。

通院が困難な患者の医療受診機会の確保につなげるとともに、医療資源を効率的に活用した持続可能な地域医療提供体制の維持を目指しています。

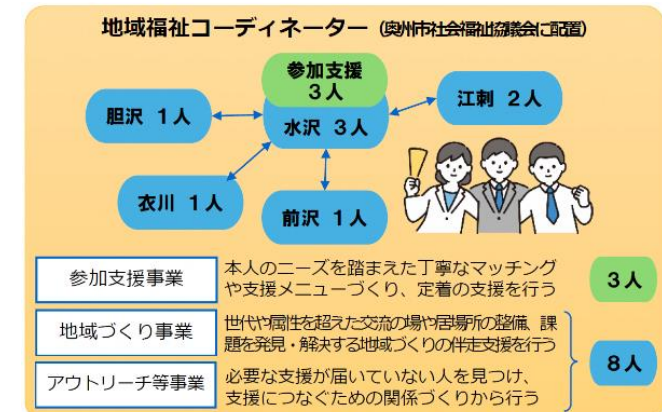
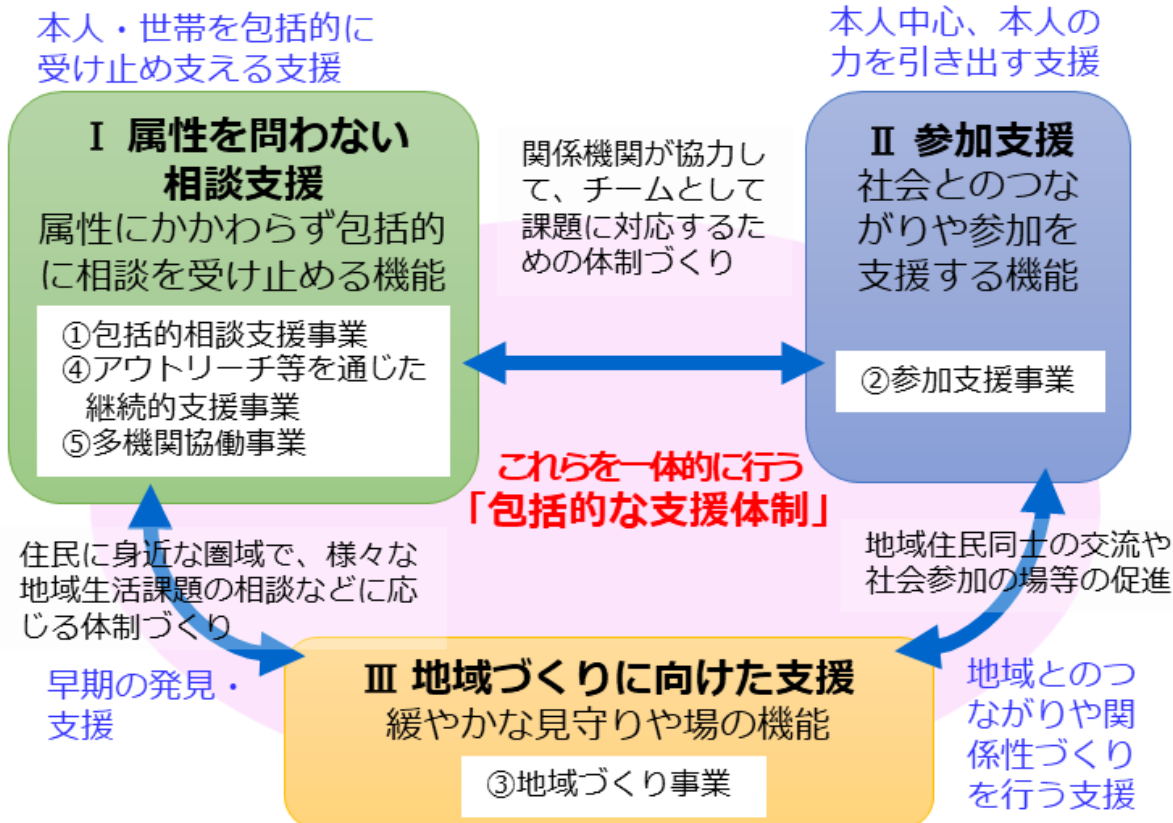


取組

重層的支援体制整備事業の実施

概要

地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築するため、令和7年4月1日から地域共生社会課を新設しました。



取組

未来羅針盤プロジェクト出張懇談会の実施

概要

未来羅針盤プロジェクトの周知を図り、市民のまちづくりに対する意識の醸成と参画を促します。

	一般向け開催回数	児童・生徒向け(小中高)開催回数
開催回数	24回	12回
延参加人数	517人	559人
参加者の声 (一部)	●どの地域の人でも遊べる場所があるといい。(小学生) ●進学で一度関東で学んで外を見てから、地元に戻ってくるといのも大事だと思う。(高校生) ●わくわくを感じられるまちづくりをしてほしい。 ●ひとづくりに投資する施策は大切なので期待している。	

※令和4年度からの累計



取組 **メイプルをはじめとした水沢市街地の賑わい創出**

概要 メイプルの再生や水沢公園のリニューアルを通じて、水沢市街地のエリア価値を高め、賑わいを取り戻します。

状況 7月 「水沢市街地の新たな可能性を見つけるシンポジウム」の開催
 7月 メイプル開設前業務受託事業者の決定(NPO法人 TOMネット)
 8月～水沢市街地エリアまちづくりワークショップの開催
 8月 水沢公園ワークショップの開催

	シンポジウム	ワークショップ
開催回数	1回	3回
参加人数	93人	66人
参加者の声 (一部)	●市民みんなが考えて行動する必要性を理解する機会に。 ●居住者で自然と賑わいが生まれるような空間を。 ●街中に本を読める場所やカフェ施設を、のんびり過ごせるところを。 ●水沢公園で音楽やカルチャーを感じるイベントを。	



取組

江刺市街地の開発による定住促進

概要

雇用増加が見込まれる江刺市街地において、子育てや文化機能を充実させ、利便性高い生活空間を創出し、定住増加を促します。

状況

4月 国土交通省「官民連携地域活性化基盤整備推進支援事業」に決定
 5月～江刺市街地エリア開発整備基本計画の策定作業
 7月 江刺まちづくりワークショップの開催

	ワークショップ	関係者・事業者サウンディング
開催回数	1回	35回
参加人数	20人	160人
参加者の声 (一部)	●こども、中高生だけでも気軽に集まり、遊べ、大人も憩える場に ●すべての世代が健康づくりや運動をできる場に ●創業をサポートする場、地場産品を買えて、食べられる場に ●笑顔あふれ、定期的に人が訪れる場に ●地域の雇用創出につながる場に	



取組**水沢江刺駅周辺エリアの開発整備**

概要 人・モノ・情報のハブとして、奥州市の玄関口に相応しい都市空間を創出します。

状況

- 5月 水沢江刺駅利用者アンケート
- 6月 羽田地区自治協議会プロジェクト説明
- 8月～ 羽田地区振興会プロジェクトチームとのワークショップ
- 9月 水沢江刺駅周辺駐車場等利用状況調査

	プロジェクト説明会	振興会PTとの協議
開催回数	1回	2回
参加人数	40人	12人
参加者の声 (一部)	●水沢江刺駅周辺エリアの開発に期待をしている ●市有駐車場がいつも満車で困っている ●駅利用者、羽田地域住民が買物や飲食をする場所が少ない ●南岩手交流プラザが有効に活用されていない	



取組

企業誘致の促進

概要

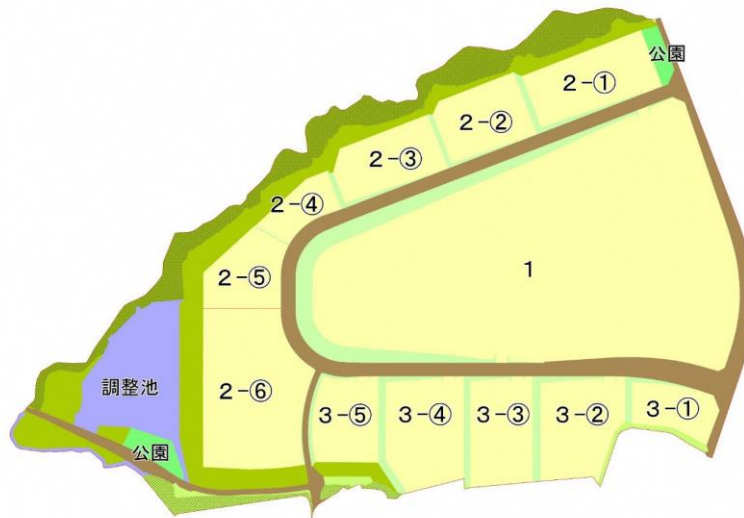
北上川流域地域に集積している自動車・半導体関連産業のさらなる集積を図るため、新たに江刺FP IIを造成し、完売しました。今後、1400人を超える新たな雇用創出が生れる見込みです。また、奥州市全体の製造品出荷額も順調に伸びており、2022年は、3,397億円で金ケ崎町、北上市に次いで、県内3位となっています。

製造品出荷額（2022）

1	金ケ崎町	6, 6 9 1 億
2	北上市	6, 4 2 5 億
3	奥州市	3, 3 9 7 億
4	花巻市	2, 4 4 2 億
5	一関市	2, 1 5 9 億

企業立地数(累計)※増設を含む

R3	180
R6	191



取組

コメの輸出促進

概要

コメの新たな販路開拓を目指し、県内初の試みとなるオーストラリアへのテスト輸出を実施し、販促活動に取り組んだ結果、本格的な取引につなげることができました。

	輸出の状況
米の総輸出量	5t
販促活動	2回(R6/11、R7/8)
オーストラリア現地の評価と課題	●冷めてもおいしいので、おにぎりに最適。 ●真空保存なので、いつでも精米したての香りを味わえる ●品質は間違いないが、値段が高い

※令和6年からの累計

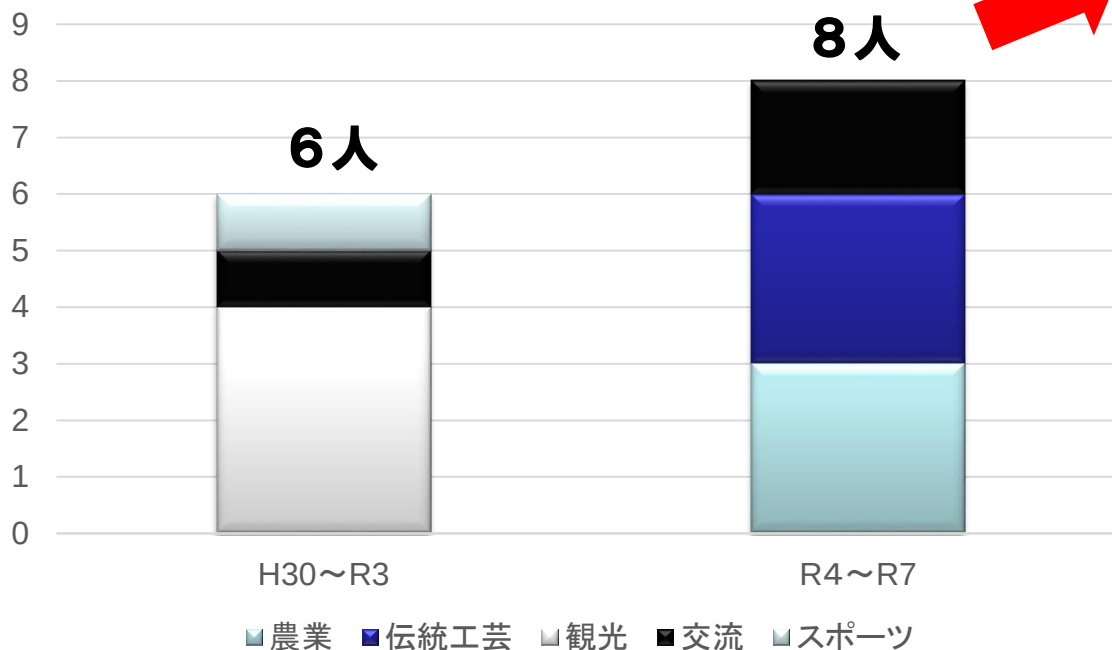


取組

地域おこし協力隊の活用

概要

新規就農者や伝統工芸産業の担い手、衣川をエリアとする地域おこしなど、将来的に就業につながりやすいコンセプトで隊員を募集し、現在、隊員たちは様々な活動を行っています。令和8年度は、農業、伝統工芸、衣川・伊手の地域おこしのために、さらに8人が新たに加わる予定です。



さらにプラス8人（現在募集中）



関係人口創出にも貢献

取組

まちづくりアカデミーによる人づくり

概要

協働によるまちづくりを推進するため、まちづくりアカデミーを開講し、地域課題の解決を担う人材を育成しています。令和7年度は、将来のまちづくりのリーダーを育成することを目的に、中高生を対象とした「奥州市協働のまちづくりアカデミージュニア」を開講し、市内の学校に通う10名の高校生が参加しました。



成果

修了生人数 (累計)	143人
ジュニア	10人

令和7年9月現在

取組

大谷翔平選手応援事業について

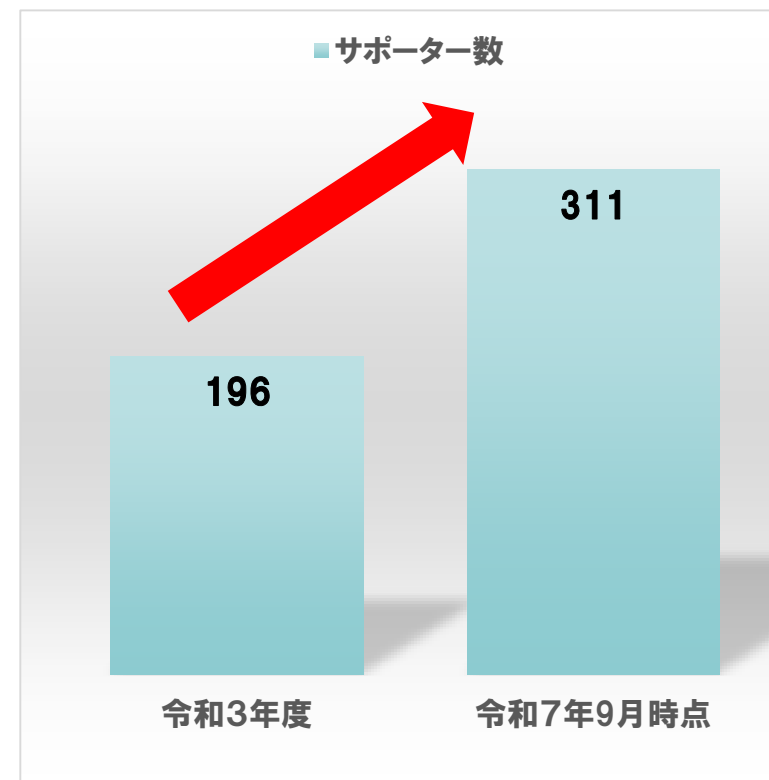
概要 市民の大谷翔平選手への応援意識の向上と、イベントを通じた市民の一体感の醸成を目的に、応援事業を実施しました。

令和7年度実施事業

- ・大谷翔平選手壁画公開
- ・PLAY BALL WEEKENDの実施
- ・大谷翔平選手のマンホール公開
- ・漢検協会×奥州市「今年の漢字®」30周年記念特別展示
- ・【協力事業】岩手県政150周年記念ロサンゼルス・ドジャース Watch Party in Iwate



R3からの伸び率 1.58倍！



取組

友好都市締結記念 日米野球親善交流

概要

令和6年10月に友好協定を締結したトーランス市から、「中学生の硬式野球チームとの親善交流試合を行いたい」旨提案があり、未来を担う若者たちにとって貴重な体験となることから、市内外からの寄付を募る官民連携事業として、代表チーム団を派遣しました。

成果

参加した中学生たちは、交流試合やホームステイを通じて貴重な体験を積むことができました。

アメリカでも大きな反響を呼び、多数のメディアが取り上げるなど、大きなPR効果がありました。

現地における市の認知度が高まったことで、9月に実施した経済交流事業へ多くの来場者があり、具体的な商談が進むなどの相乗効果が生れました。

参加者の声(一部)

この度はご支援ありがとうございました。アメリカでは野球の事、生活の事、色々な事を多く学びました。これからは自分の夢や好きな事に向かって頑張ってきます。



取組

奥州湖周辺エリアの環境整備

概要 観光・スポーツ・レクリエーションスポットとして、非常に高いポテンシャルを有する奥州湖周辺エリアをアウトドアアクティビティの拠点として整備します。

状況 R7.5月～ 奥州湖交流館改修工事
R7.3月～ 奥州湖周辺エリアプロジェクト推進組織設立準備会

総事業費(予算額) 約3億3千万円

うち 国の第2世代交付金 約1億7千万円活用

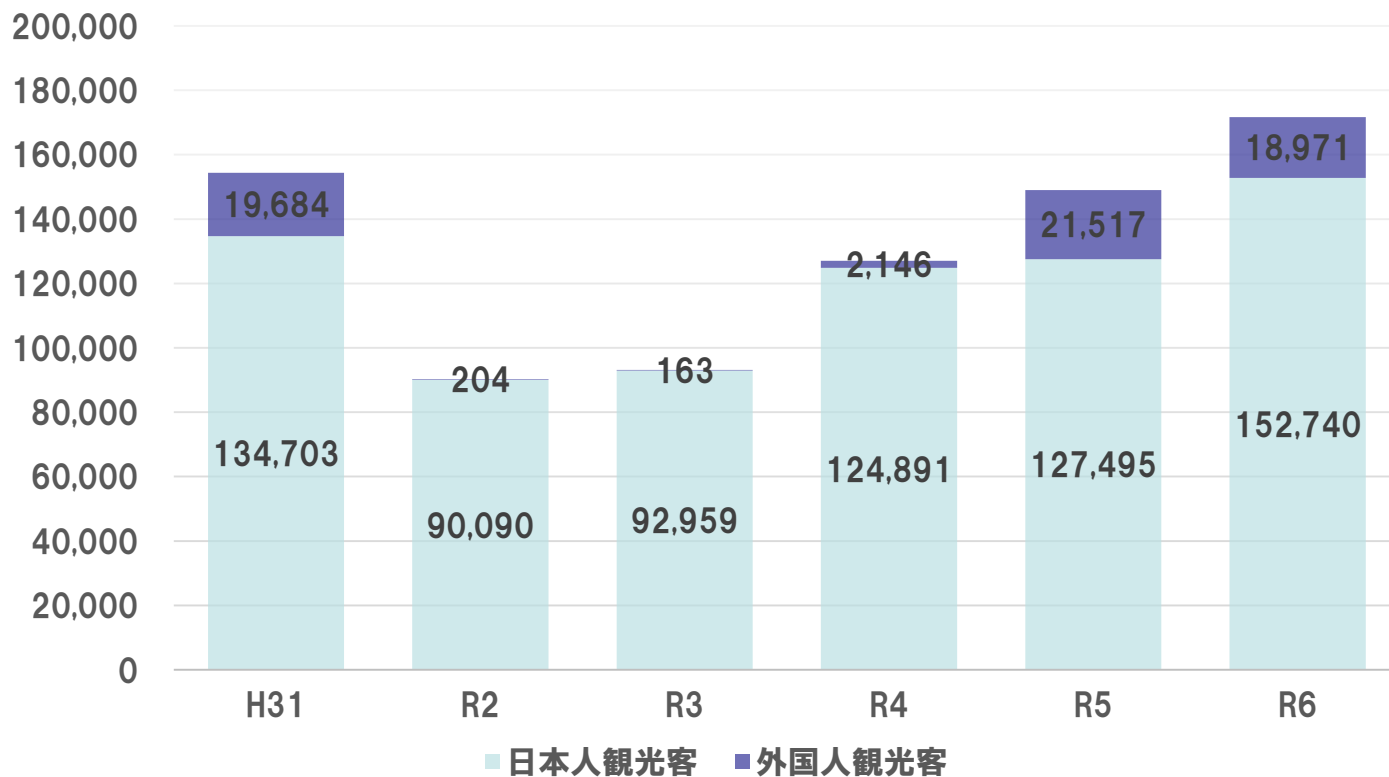
	設立準備会
開催回数	・準備会:3回 ・ワーキンググループ:3回
参画団体	11団体
参加者の声 (一部)	・ターゲット層、ブランディングを明確にすることで集客が図られる ・SNSを利用した情報発信は重要であり有効 ・なりわい創出のためには、エリアの認知度を高める必要がある



取組

えさし藤原の郷の観光促進

概要 大河ドラマ「光る君へ」のメインロケ地として、十二単の着付けなどの体験コンテンツを提供する平安ムーブメント事業を実施し、コロナにより落ち込んだ観光客をV字回復。国のインバウンド効果もあり、外国人観光客も増加しました。



取組 官民連携、民間移譲による観光施設の再生

概要 官民連携や民間移譲により、民間の投資やノウハウを生かして経営体質が悪化していた観光施設を再生。市の新たな観光拠点となっています。

国見平スキー場

R4年10月 市直営から指定管理へ



奥州・平泉温泉旅館 ITSUMU(旧衣川荘)

R7年4月グランドオープン



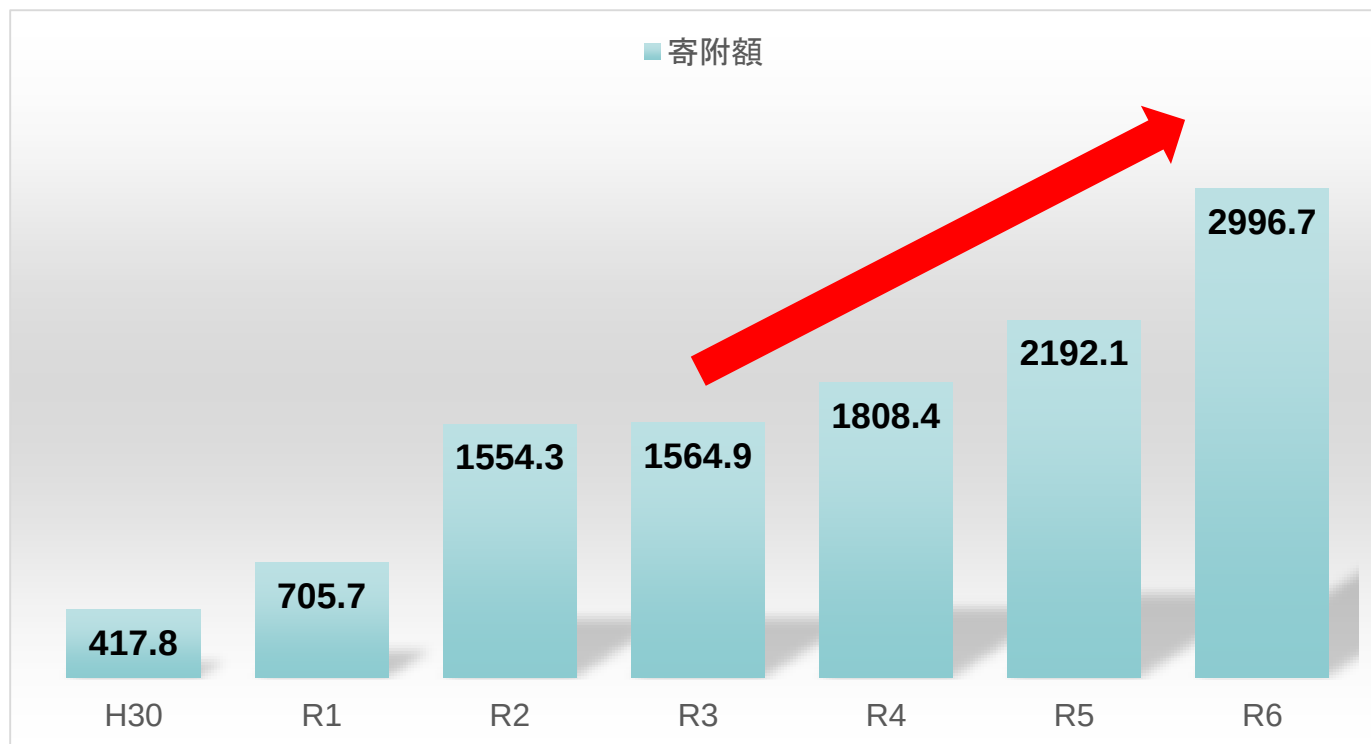
取組 ふるさと応援寄附制度を活用した地場産業への経済波及

概要

返礼品メニューの充実やシティプロモーションの成果により寄附金は飛躍的に増加しており、地場産業への経済波及効果は大きく伸びております。また、リピーターも増加するなど、奥州ファンの獲得にもつながっています。

単位（百万円）

R3からの伸び率 約2倍！



取組

広報おうしゅうの充実

概要 市民が市政に関心をもてるよう、分かりやすい広報誌の作成に努めています。
 分かりやすい紙面構成、ダイナミックな写真、市民を巻き込んだ特集記事など、広報おうしゅうは、毎年のように様々な賞を受賞しています。

- ◆ 「歴史公園えさし藤原の郷」ロケ誘致の歴史
 （令和7年度 全国広報コンクール 広報誌部門4位）
- ◆ 表紙 カヌージャパンカップ
 （令和7年度 全国広報コンクール 一枚写真部門入選）
- ◆ 市民と育てる市公式マスコットキャラクター「おうしゅうたろう」の大躍進
 （令和7年度 全国広報コンクール 広報企画部門入選）
- ◆ 黒石寺蘇民祭特集
 （令和6年度 岩手県広報コンクール 組み写真部門2位）
- ◆ 「美しい風景を通じて“奥州ファン”を開拓する 壁紙カレンダープロジェクト」
 （令和6年度 全国広報コンクール 広報企画部門入選）



取組

おうしゅうたろうを活用したシティプロモーション

概要 若手職員のプロジェクトチームから生まれた奥州市公式マスコットキャラクター「おうしゅうたろう」は、令和6年5月10日のリリースから、市内外で大きな反響を呼び、様々なシーンで活躍しています。

- ◆ Instagram フォロワー 1,893人(R6.4) ⇒ 6,060(R7.9)
- ◆ キャラリリース動画再生 18,000回突破
- ◆ 民間企業等のイラストデータ活用(商品デザイン等) 255件
- ◆ 民間企業へのぬいぐるみの貸し出し(企業PRの動画撮影等) 20件
- ◆ 市民が作曲した「おうしゅうたろうの歌」が、保育園等の遊戯で利用
- ◆ SNS等で、「たろ活」(おうしゅうたろうに関連した掲載)が大流行



➡ 「シティプロモーションアワード2024」 東北初の金賞受賞！

取組

岩手大学との提携講義の実施

概要

岩手大学との提携講義を通じて、学生に対し、本市のシティプロモーションや市内の事業所等の認知度向上を図り、関係人口の創出や市内事業所等の人材確保のきっかけづくりとなることを目指します。

1日目（8/19） ～奥州市のまちづくりの方向性～			於：岩手大学	
①	奥州市施策説明①	奥州市未来羅針盤図について（市政企画部未来羅針盤課）	80分	360分
②	市長講話	講話・学生との意見交換（奥州市長 倉成 淳）	100分	
③	奥州市職員トークセッション	奥州市職員として働く（奥州市役所若手職員）	80分	
④	特別講話・落語	落語家を目指した理由や歩んできたキャリア等（奥州大使 桂枝太郎氏）	100分	
2日目（8/20） ～奥州市のモノづくり～			於：岩手大学	
⑤	奥州市施策説明②	奥州市の産業と企業支援（市商工観光部企業支援室）	50分	380分
⑥	奥州市施策説明③	奥州市の農業について（市農林部農政課）	50分	
⑦ ～ ⑩	市内企業講話	市内立地企業①（東京エレクトロンテクノロジーソリューションズ(株)）	100分	
		市内立地企業②（(株)フジキン）	60分	
		南部鉄器製造事業者（(株)及富 菊地海人氏）	60分	
		モノづくりの女性経営者（(株)千田精密工業 代表取締役 千田ゆきえ）	60分	
3日目（8/21） ～奥州市を訪れる～			於：奥州市内	
⑪	市内企業訪問	工場見学、社員との懇談（東京エレクトロンテクノロジーソリューションズ(株)）	100分	340分
⑫	市内観光地見学・昼食	えさし藤原の郷	120分	
⑬	フィールドワーク	未来羅針盤プロジェクト関連で2コース設定 ①中心市街地活性化コース（メイプル・水沢公園など） ②南部鉄器のまち探究コース（南岩手交流プラザなど）	120分	
4日目（8/22） ～まとめ～			於：岩手大学	
⑭	ワークショップ	フィールドワークを踏まえた奥州市の特徴明確化と事業提案	200分	200分



就職希望地に奥州市を選択した者

授業前

5人

授業後

12人

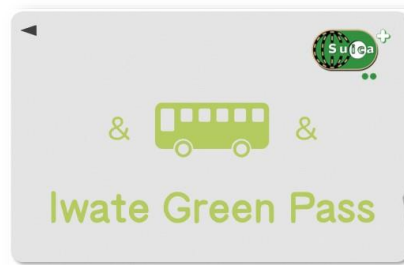
取組 未来型公共交通サービスの拡大

概要 運転手不足や燃料費の高騰により、全国どこでも公共交通は大きな課題を抱えています
が、奥州市ではデジタル技術や住民共助による公共交通システムを構築し、持続可能な公
共交通を目指しています。

令和6年12月

交通系ICカード決済の利用開始

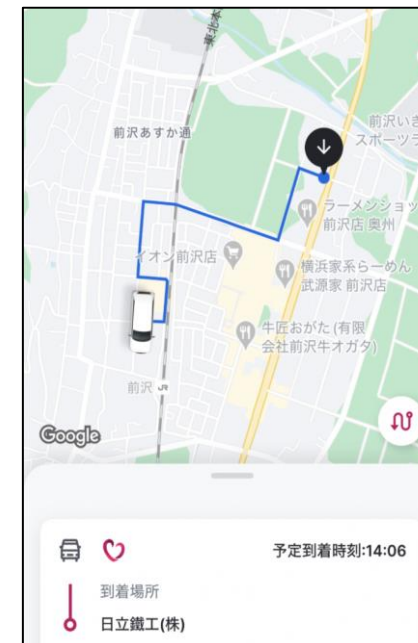
- ・「Suica」、「モバイル Suica」及び「Suica」と相互利用を行っている全国交通系ICカードが利用できます
- ・小銭の準備や両替を気にせず、スムーズにバスの乗車ができます
- ・バス車内やコンビニなどでチャージして繰り返し利用できます



令和7年2月

AIデマンド交通システムの導入

- ・電話に加えてアプリ予約(24時間予約)も可能
- ・アプリで車両の運行状況が確認できます



取組

カーボンニュートラルに向けた対策

概要

省エネルギー・省資源型の生活・産業活動を支援し、地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出を抑制します。

- ◆ GX推進室の設置
- ◆ 奥州市 2050 年二酸化炭素排出実質ゼロ表明
- ◆ 熱中症対策としてクーリングシェルターの設置
- ◆ 「CO₂を食べる自販機」の設置と熱中症対策に関する取組みを開始（アサヒ飲料、ミチノクと協定締結）
- ◆ 「ボトルtoボトル」水平リサイクルの取組を開始（サントリーグループ、寺岡精工、デジアイズと協定締結）



取組 フロントヤード改革の推進

概要 住民と行政との接点(フロントヤード)の多様化・充実化、窓口業務の改善などを通じて、住民の利便性の向上と業務効率化を図ります。

自治体フロントヤード改革で実現



書かせない ⇒ スマート窓口（書かない窓口）の導入(R5)

窓口の申請業務をデジタル化し、転入・転出・転居の手続きをタブレットを活用してデータを入力。そのデータを連携することでスムーズな手続きを実現

▶ R6利用者数 5,337件、前年比8%増、利用者の8割が満足



待たせない ⇒ キャッシュレス決済の導入(R4)

導入場所は、本庁市民課窓口、納税課窓口及び各総合支所市民窓口にてクレジット、電子マネー、コード決済が利用可能。住民票等の交付手数料、印鑑証明手数料、市税等。

▶ R6利用件数 13,573件、前年比1.4%増



行かせない ⇒ 行政手続きのオンライン化(R3)、オンライン面談窓口の導入(R5)

オンライン申請は、子育てや介護等の手続き、図書館資料・公共施設の予約など

▶ R6利用者数 26,793件、前年比で1.8倍

オンライン面談窓口は、各総合支所に面談スペースを設置。専用端末で本庁職員と面談

▶ R6 43件、前年比8件増



取組

市民へのデジタル活用支援

概要 誰一人取り残さず、住民の誰もがデジタル化による利便性の恩恵を受けられるよう、インターネットやパソコン、スマートフォン等を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差・デジタルデバイドを解消します。

高齢者デジタルサポーター育成事業 (R5)

スマートフォン利用に不慣れな高齢者が、身近で気軽に相談できる人材「デジタルサポーター」を育成し、スマホ操作などの相談に応じる。



R6は17名を認定し、全体で認定者数74人。サポーターの活動実績は全体で62件

スマートフォン教室 (R5)

誰もがスマホを不安なく利用できるよう、各地区センターで無料のスマートフォン教室を開催。電話、メールなどの基本操作を学ぶ。



令和6年度は延べ26回開催、221人が参加

【未来羅針盤プロジェクトの今後の展望】

幅広い人材と民間資本を活用し、時間を守って成果物を出す（ステージ管理）



《 官民連携が地方自治体の未来を決める？ 》

基本形：民間資本を活用し、行政が伴走支援する



そのために必要なファクター

- ①市の将来ビジョンの具現化と政策の具体化
- ②コストだけでなく、利益やベネフィット（経済効果等）も定量的に扱う



- 官民の接点をつくり連携を強化する
→ 互いの『強み』『限界』を知る
- 官は、大衆の納得性を追求するため調整に時間がかかり公平性も問われる。一方、民間企業は、個性的でエッジの効いたプランを求める。